vol.400
農政連情報誌

みどりの風

2023
5
令和5年

今月の表紙「お田植えデビュー」（撮影：森下 満子 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■令和5年度 JA熊本中央会・連合会臨時総会
■全国農政連 令和4年度通常総会を開催
■「JAグループ農政推進の集い」が開催される
■令和5年産 春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

近年、地方議員のなり手不足が話題になることがある。自治体としては、手っ取り早い解消方法として、議員定数の削減を打ち出すところもある。しかし、議員定数削減は、なり手不足解消には必ずしもつながっていない。県内のある町では、定数を1減したが立候補者は定数と同じ候補者数となり、全員が無投票で当選した。前回令和元年の統一地方選挙では、7市町村で無投票となった。

定数削減は本当にいいことなのか。議事進行がスムーズに進められたり、経費削減につながるなどの意見もある。一方、多様な住民の意見を政策に反映できなくなる、安易な削減は常任委員会活動を停滞させ議会審議を空洞化させる、などの意見もあがる。

また、なり手不足の要因の一つとされる議員報酬についてであるが、全国規模で見ると大きな格差がある。最高は横浜市の953、000円、低い自治体になると100、000円程度である。熊本の地方自治体の場合は、人口規模別に比較すると7割の自治体で全国平均を上回っている。

議員報酬の増額は、議員のなり手を増やすための有効な対策だと考えている自治体も多い。

平成31年の県議会議員選挙では、1人区9選挙区のうち、8選挙区で無投票当選が確定した。有権者が投票の機会を失った形であり、当選した議員は有権者の審判を受けないまま当選が決まった。1人区では多選によって民意の多様性が阻まれかねない。

令和5年度 JA熊本中央会・連合会臨時総会

JA熊本中央会と各連合会は3月30日、熊本市で臨時総会を開催し、令和5年度事業計画、収支予算などの議案を承認しました。

令和5年度は第27回JA熊本県大会に基づく各団体の3カ年計画の中間年度で、令和6年4月の設立を目指す県域JA実現に向けて、最終的な検討が行われる重要な年度となります。

中央会は①県域JAの実現に向けた取り組みの実践、②持続可能な農業・農村像の実現に向けた政策実現の推進、③農業者の所得増大等に向けたJA自己改革に対する総合的な支援の実践、④持続可能なJAの組織・経営基盤確立に向けた総合的な支援の実践、を最重要課題として取り組むこととしています。

経済連は①生産基盤の拡大と県産農畜産物の販売力発揮、②生産・流通コストの低減と事業競争力の強化、③経済連グループ経営基盤の強化、④県域JAへの取り組みを重点取組事項に据えています。

厚生連は①将来を見据えた健康管理事業の推進強化、②施設健診の機能強化と持続可能な診療業務の展開、③巡回健診における受診環境の整備、④産業保健活動の積極的な展開と健康づくりへの取り組み―など6つの重点施策を掲げました。

中央会の宮本隆幸会長は「この先の農業を見据えた中で、早急に農業生産基盤の強化とJA経営基盤並びに組織基盤の強化を図る」と述べました。

経済連の丁道夫会長は「令和5年度は中期3カ年計画の2年目であり、目標達成に向けて役職員一体となって取り組んでいく」と話しました。

▲挨拶をするJA熊本中央会の宮本隆幸会長

▲挨拶をするJA熊本経済連の丁道夫会長

全国農政連 令和4年度通常総会を開催

全国農業者農政運動組織連盟(全国農政連)は、3月9日JAビル(東京)で令和4年度通常総会を開催しました。

総会では、令和4年度事業経過概要、令和5年度事業計画・収支予算、令和5年度会費の徴収などを提出し、全て承認されました。

【令和4年度事業経過概要】

令和4年度の活動内容として、新型コロナウイルス問題、生産資材価格高騰対策、食料・農業・農村基本法の検証・見直し対策などについて「農政運動ジャーナル」誌の刊行等による情報発信活動に取り組みました。

要請活動については、「食料・農業・地域政策推進全国大会」や「生産資材高騰対策等基本農政確立緊急全国大会」、「JAグループ基本農政確立全国大会」、「JAグループ農政推進の集い」などを実施しました。

また、第26回参議院選挙では、都道府県選挙区に46名を推薦し、45名が当選しました。比例代表では組織内候補として藤木しんや候補を擁立し、自民党比例代表の得票順位7位で2期目の当選を果たしました。これに合わせ、参議院選挙の評価と課題、今後の対応について検討を行いました。

【令和5年度事業計画】

食料・農業・農村政策の確立を目指す取り組みとして、「農政ジャーナル」誌の発行等による情宣活動の取り組みと共に、JAグループと連携し、食料・農業・農村政策の確立を目指す取り組みを行います。また、政治活動の意義や必要性の理解を深めるため、農政運動で実現した制度・予算・税制等の結果について、決定プロセスと具体的な内容等を明示し、盟友・組合員等に周知・共有する取り組みを行います。

令和7年7月に行われる第27回参議院選挙における比例区への組織代表候補擁立について、必要な時期に選挙対応を検討し、都道府県農政連・JAグループ一丸となった取り組みを行います。

さらに農政活動・選挙活動の意義や必要性、参議院選挙の制度や仕組み、当面の政治情勢などを取り入れた新たな農政学習・研修会を開催します。

▲全国農政連通常総会の様子

「JAグループ農政推進の集い」が開催される

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟（全国農政連）は、3月8日に「JAグループ農政推進の集い」を開催しました。

令和4年度は、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安による生産資材価格の高騰・高止まりなど、農業・農村をめぐる課題はかつてない危機的な状況となりました。こうした中、与党国会議員には、生産資材高騰対策や、食料安全保障対策予算をはじめとする農業関連予算の確保や税制改正などにおいて、生産現場を力強く後押ししていただきました。

この集いは、今年度も農業・農村をめぐる環境は厳しさが増すことが予想されることから、今後も与党国会議員と連携を深め、農政のさらなる推進を期すために開催されたものです。

主催者挨拶で、JA全中の中家徹会長は「令和4年度の我が国農業は、岸田総理が昨年の記者会見で戦後最大級の難局にあると表現されたようにかつてない極めて厳しい状況だった。生産資材価格の高止まりは依然として続いており、価格転嫁も進まず、生産現場は危機的な状況が続いている」と述べました。

また、来賓として登壇した自民党の江藤拓総合農林政策調査会長（衆・宮崎2区）は、「農政グループの皆さんとしっかり連携して農政を推進していきたい。食料・農業・農村基本法の改正についてもより未来志向の法改正になるよう努力する」とあいさつしました。この他、公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長（衆・北海道10区）や自民党の森山裕食料安全保障に関する検討委員会委員長（衆・鹿児島4区）からも力強いメッセージをいただきました。

最後に佐藤崇史全国農協青年組織協議会会長の掛け声で、新たな農業、日本の食卓を守り抜いていこうと、全員でガンバロー三唱を行いました。

▲大会で挨拶を行う江藤拓総合農林政策調査会長

▲牛乳で乾杯を行う山野徹全国農政連会長

令和5年産 春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催

～JA熊本経済連販売目標額355億円～

JA熊本経済連は3月7日、熊本市内のホテルで令和5年産春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催しました。大会の実開催は4年ぶりで、生産者、JA、熊本県のほか、関東・関西卸売り関係者など230人が出席しました。販売目標金額を前年度目標比1％増の355億円（瓜類92億円、春野菜263億円）とする計画を発表しました。

令和5年産の出荷計画数量は、瓜類が2％減の27、858トン、野菜類が1％減の84、142トンを見込んでいます。品目別では、小玉すいかやアスパラガス、なす、たまねぎの増加を計画しています。

春野菜については、1月に寒波の影響があったものの生育は順調。しかし、瓜類は生産者の高齢化による規模縮小や担い手不足による減少が続いています。

同連の丁道夫会長は「生産資材の高騰や遠隔輸送における物流の2024年問題など課題は山積みだが、農家は歯を食いしばって努力している。積極的な販売力強化に務める」とあいさつしました。

消費地へのメッセージとして、八代市のトマト農家で熊本県野菜振興協会園芸部長会部会長の東家誠也さん、産地へのメッセージとしてセントライ青果株式会社代表取締役社長の小坂芳則さんが思いを語りました。

最後に市場代表の堀之内重治関西熊本県青果物研究会会長と生産者代表の橋本千晶熊本県野菜振興協会女性部長会部会長による力強い決意表明が行われました。

令和5年産　春夏瓜類・春野菜出荷の基本方針

～変化に対応する新たな挑戦～

①環境変化に対応する産地体制
②情報を活かした円滑な販売
③産地一体となった熊本ファンづくり

▲大会で挨拶を行うJA熊本経済連の丁道夫会長

全国農政連推薦・県農政連公認

参議院議員藤木しんやの 永田町でも百姓宣言

「復興と明るい未来へ」

【7年目の春を迎えて】

熊本地震の発生から7年が経過しました。

熊本地震により犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の方々にお悔やみを申し上げます。また、被災をされた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

早いもので7年の歳月が経ちましたが、今でも震災当時の記憶、体中を駆け巡った感情が色あせることはありません。7年前の震災を決して風化させることなく、あの日の出来事に一人ひとりがしっかり向き合い、現実を受け止め、後世に伝えていかなければなりません。いつ、どこで災害が発生するか分かりませんが、常日頃より災害への最低限の備えや対応が、いざという時に大切な人を守り、支えることに繋がります。熊本県のさらなる創造的復興に向け、県民一丸となり力を合わせて頑張りましょう。

【食料安全保障は農政の中心】

先日、都内で開催された「令和4年度JAグループ農政推進の集い」に出席いたしました。全国のJAグループ・農政運動の代表者や、与党国会議員が約500名出席されました。与党議員代表として江藤拓総合農林政策調査会長から「農政を支えることは、国を支えることだ。基本法は、未来志向の改正を目指す。」と強く述べられました。また、森山裕食料安全保障に関する検討委員会委員長からは「再生産可能な適正な農産物の価格形成の法制度整備に向け検討を加速化している。」と強調されました。

これ以上、日本農業を疲弊させるわけにはいきません。生産基盤と食料安全保障の強化を進め、国民のためにも、安心して食料を安定的に供給し続ける生産現場の取り組みを全力で支援しなくてはなりません。引き続き全国の皆さまからご意見を頂きながら、持続可能な農業の実現に向けて尽力してまいります。

先月開催された野球の世界一を決める2023WBC。私もテレビ越しですが応援させていただきました。一次ラウンドから順当に勝ち続けた侍ジャパンのチーム力には圧倒されました。熊本県出身の村上宗隆選手と牧原大成選手の活躍もあり、14年ぶり悲願の王座奪還を成し遂げました。侍ジャパンの選手の皆さまには日本中に勇気と感動を与えていただいたことに敬意を表します。

▲参議院農林水産委員会で答弁

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの 農政問題に斬り込む

3月7日の参議院予算委員会にて質疑

【米の生産調整および需給や価格の安定対策について】

まず米の生産調整について、目標設定と達成状況を質問しました。これに対し「令和4年産は3．9万ha の作付転換が必要であったところ5．2万haの転換が図られた」、また、米の需給は「相当の需給改善が行われた結果、米価は回復基調にある」との答弁でした。

次に、米の需給や価格の安定対策についても政府に問いました。これに対し「麦や大豆など需要のある作物への転換や畑地化への支援、ナラシや収入保険といった収入減少への対策を講じ、かつ、米の輸出や新たな需要拡大対策を着実に進めていく」という答弁でした。

私は、我が国の気候風土の中で築き上げられた主食である米を中心に、その需給調整や農用地の利活用、農業者の所得実現に向けて、農業者、JA、自治体などが一体となり、話し合いと工夫を重ねながら取り組んでおられる意義と重要性をしっかりと訴えました。

【規制改革推進会議による競争原理の導入について】

また、私は政府に対し「規制改革推進会議は過度な競争原理を推し進めてきているのではないか」「農業者や消費者の努力をもっと評価すべきではないか」と質問しました。これに対しては、「規制改革の要望者からだけでなく、見解を異にする関係団体などの意見も聴取するなど、丁寧に対応していく」「農業分野は農業団体や農業者などの声、また農林水産省の見解も聞きながら議論を進める」との答弁でした。

私は、規制改革推進会議による急進的な競争原理の導入は、地域の協同の取り組みに悪影響を及ぼしかねないと危惧しています。今後も、地域の実態を踏まえない政策が推し進められることがないよう、その動きを注視していかねばなりません。

▲参議院予算委員会にて

～JA熊本市青壮年部活動報告～

JA熊本市青壮年部（藤本太一部長）は、9支部、盟友数247名で活動しています。

管内では、温暖な気候を生かした施設園芸が盛んであり、北部地区でスイカ・メロン、西南部はナス・トマト・メロン・レイシ等があり、中でもナス・スイカなどは県内や全国でも有数の産地です。ナスについては、耐候性ハウスの整備が進み、産地の強化や所得向上につながっています。

また、東・南部は米・麦・大豆などの普通作が多く、河内や金峰山山麓を一帯とした地域ではミカンが全国トップクラスの産地を誇っています。

さらに各品目で「夢未来ブランド」のさらなる確立に向け取り組んでいます。

主な取り組み・活動

主な青壮年部活動としては、活力ある地域農業と豊かな地域社会を実現するため、「農政課題に関する要請書」等を用いて『県選出国会議員への要請活動』を展開しております。

その他、『JA常勤役員との意見交換会』や『大西熊本市長と意見交換会』を開催し、JA運動や本市における農業政策への理解を深めると同時に、若手農業者が抱える課題を提起し、農業政策の要請等を行っています。

今後の取り組み、抱負

食育活動（あぐりキッズスクールでの農業体験等）においては、近年のコロナ禍の影響もあり活動自粛を余儀なくされておりましたが、令和5年度の開催に向けて計画を行っています。

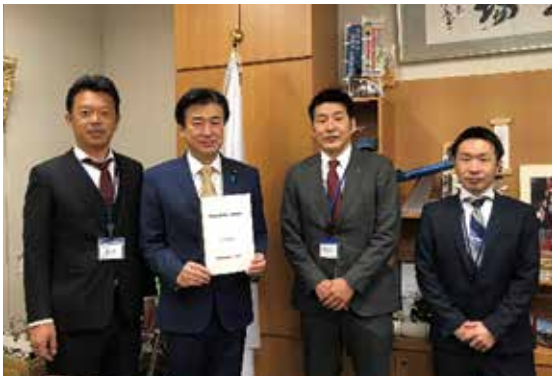
さらなる組織活動・地域農業の活性化を目指し、引き続き農業施策への理解や政策提言等農政活動や各種研修会を通じた農業技術の研鑽等に努めていきたいと考えています。

JA YOUTH

（各支部及び盟友数）

支部名	盟友数
河　内	40
中　島	12
天　明	48
飽　田	41
北　部	40
竜　田	12
東　部	17
西熊本	28
健　軍	9

●農政活動（県選出国会議員への要請活動）



▲木原稔衆議院議員への要請

▲馬場成志参議院議員への要請
（JA熊本市・JAたまな青壮年部合同）

▲大西一史熊本市長との意見交換会の様子

●JAの事業運営に参加・参画

▲JA常勤役員との意見交換会の様子

JA中央会

「令和4年度熊本県JA広報・日本農業新聞大会」開催

JA熊本中央会は3月2日、熊本県JA広報・日本農業新聞大会を開催しました。本大会は、JAの広報活動の意義・重要性の再認識や、広報活動の強化を図ることの他、日本農業新聞の情報発信や普及拡大を目的としています。また、6回目となるJA広報コンクール表彰式や令和4年度日本農業新聞通信員功績表彰式等を行いました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「本日を契機として、JAの広報がさらに強化され、組合員や地域とのつながりを深め、本県JAグループがますます発展することを祈念する」と挨拶しました。

広報コンクールで最優秀賞を受賞したJA菊池総務部企画広報課の村上恭一係長による広報活動の事例発表の他、日本農業新聞の緒方大造論説委員からは「食と農を守るために ―何をどう伝えるか―」と題して講演も行われました。

表彰JAおよび表彰対象の通信員は以下の通り。かっこ内は所属JA。（敬称略）

◇JA広報コンクール

◆総合の部

▽最優秀賞＝JA菊池

▽優秀賞＝JA熊本うき

▽優良賞＝JA鹿本

◆組合員向け広報誌の部

◆地域密着型広報活動の部

◆ウェブメディア活用の部

▽（3部門）優秀賞＝JA菊池

◇通信員表彰

（全国）

▽4月ニュース賞＝齋藤真理子（菊池）

（県域）

▽最多送稿賞＝松原愛（たまな）

▽敢闘賞＝田中梨奈（熊本市）、齋藤真理子（菊池）、永村章（熊本うき）、森留歌（やつしろ）、松本淳（あまくさ）

▽新人賞＝森美紀（本渡五和）

▲広報活動の事例発表をするJA菊池の村上係長

▲緒方大造論説委員による講演会

JA経済連

県産農畜産物を搭乗者にPR

～阿蘇くまもと空港新ターミナルビル～

JA熊本経済連は、3月23日にオープンした阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルビルで、熊本県産農畜産物などの展示を始めました。

搭乗待合エリア内で㈱さとゆめが運営する展示店舗「QSHUHUB（キューシューハブ）」で、旬の県産農畜産物や同連の加工品などを展示します。あわせて電子商取引（EC）サイト「JA熊本経済連Yahoo!Shop」のQRコードを掲示し、搭乗者への認知度向上と販売促進に取り組みます。

展示内容は、トマトやナスなどの県産野菜をはじめ、メロンやイチゴなどの県産果実、県産茶や「くまさんの輝き」などの県産米、くまもと黒毛和牛「和王」や「くまもとのりんどうポーク」などの農畜産物や加工品で、出荷時期やキャンペーンなどに合わせて変更します。

オープン初日の23日には、これから出荷の最盛期を迎えるスイカや「くまさんの輝き」、同連が販売しているスイーツ「純米かすてら」などを展示しました。また、スイカの試食も行い、搭乗者にPRしました。同連総合営業課の佐藤暢寿課長は「県外のお客様に四季折々の熊本の農畜産物や加工品を知ってもらい、ファンになってもらいたい」と話しました。

▲オープン初日には搭乗者にスイカの試食を勧めPRしました

▲熊本県産農畜産物や加工品を展示しています

JA共済連

JA共済は、皆様の新生活を応援します★

この春、入園、入学、就職、転勤、セカンドライフのスタートなど、ご自身やご家族が様々な環境の変化を迎える方も多いのではないでしょうか。JA共済では、ひと・いえ・くるまの総合保障でおひとりおひとりそれぞれに必要な保障をトータルでご提供しています。環境の変化は保障の見直しに最適な時です。

この機会に、ご家族の安心の保障を見直してみませんか？

★★★ ひとの保障 ★★★

＜終身共済・医療共済・年金共済＞ご自身やお子様が新社会人として働き始める方には、終身共済と医療共済、そして年金共済を併せておすすめします。万一の時残されるご家族のための保障と、けがや病気に備える保障、老後の資金については、若いうちから計画的に備えておきたいものです。

★★★ いえの保障 ★★★

＜建物更生共済＞建物はもちろんですが、家財の保障を忘れていませんか？近年、大規模な水災や、夏の落雷によって、家財にも大きな被害が出ています。一度に複数の家財が被害を受ければ、想像以上に出費がかさむこともあります。ぜひ「建物更生共済 My 家財プラス」で万全の備えを整えましょう。

★★★ くるまの保障 ★★★

＜自動車共済＞高校卒業を機にお子様が自動車運転免許を取得されるご家庭も多いのではないでしょうか。現在ご家庭にあるお車をお子様も運転されるようになる場合は、ご加入の自動車共済（保険）の運転者年齢条件等を必ずご確認ください。また、お子様が自転車通学を開始される場合、「日常生活賠償責任特約マモルモア」への加入をぜひご検討ください。

詳しくは、お近くのJAへお気軽にどうぞ！

農政連

フォトコンテスト入選作品を展示

～第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景～

四季折々に移りゆく表情を見せる美しい農村の風景。その素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まった、JAグループ熊本とRKK熊本放送で主催する「未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト」も今年で11回目を迎えました。

県内で撮影された農業・農村にまつわる様々な風景の一瞬を切り取った素晴らしい作品が毎年多数寄せられ、令和4年7月から令和5年1月末まで実施した今回のコンテストにも、県内外から207名、784点の応募がありました。その中から25作品が入選し、そのうち5作品がグランプリ等を受賞されました。

▲グランプリ作品「自分で採ったかぶは美味しいぞ！」
（撮影：田中 美帆 様）

▲第11回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品展示風景（県庁ロビー）

入選作品は、県庁ロビーやRKK熊本放送本社ロビー、JA会館、JA教育センターなどで展示されます。また、作品の一部は「農村環境保全キャンペーン」のCMとしてRKK熊本で放映されています。また、農政連発行機関紙の「みどりの風」の表紙等にも掲載していきます。

フォトコンテスト入選作品展示会場

展所場示	住　所	展示期間(予定)
熊本県庁新館ロビー	熊本市中央区水前寺6丁目18-1	令和5年3月 6日～3月20日
RKK熊本本社ロビー	熊本市中央区山崎町30	令和5年3月20日～3月24日
JA熊本会館ロビー	熊本市中央区南千反畑町2-3	令和5年3月24日～5月31日
JA教育センター	合志市栄3766-32	令和5年6月 1日～7月31日

hug

「食」と「農」の魅力を伝える“ココロとカラダを育む”マガジン。
vol.52 JA直売所の店頭ラックなどで無料配布中!

webでも
ぜひご覧ください♪

JAグループ 熊本ホームページ

「Hug」ホームページ

あとがき

今月号が盟友の皆様へ届くのは、今年の統一地方選挙の前半戦の県議会議員選挙と政令指定都市の熊本市議会議員選挙が終わり、後半の市町村長・議員選挙が終わる頃でしょうか。

4年に一度の選挙も以前ほどには盛り上がらなくなった感があります。田舎では道路の辻に夜警が出て通行人の取り締まりみないなものをやっていました。当時は現在よりも1票の重みがあったようです。現在は投票率の下降傾向が続いています。この統一地方選挙が始まった昭和22年で70～80％、翌26年には90％を超えていました。しかし、現在は50％を割り込んでいます。

政府や選挙管理委員会も選挙年齢の引き下げや期日前投票の実施、投票を呼び掛ける大々的なCMの実施などあの手この手で対策を行っていますが、投票率の向上にはなかなか結びついていないのが現状のようです。

「外輪山の夏」

撮影：岡部 秀朋 様
第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和5年4月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）